

平成 25 年度 一級建築士設計製図試験 課題発表分析

● 大学のセミナーハウスとは

大学のセミナーハウスは、非日常的な環境で、教員と学生の小グループが生活を共にしながら研修・交流を行う施設である。従来の複数の大学が共同で運営するものから、単独で運営するものが一般的になっている。



● 立地条件

大部分が良好な自然環境のなかに建てられており、研修・交流の他に運動・レクリエーション機能を備えたものが多い。今年度課題では、地方都市の市街地から少し離れた、良好な景観が望む立地条件が考えられる。

● セミナーハウスの構成

セミナーハウスの構成は、特定多数の学生が利用する「宿泊」、「研修・学習」と「交流・レクリエーション」を主体としたものであるが、ワークショップを開催するなど、施設の一部を一般に開放し、開かれた施設として世代間交流や社会貢献を重視することも考えられる。

● 今年度課題の規模等

公表された要求図面の種類から、今年度課題は2階建の建築物である可能性が高く、2,000m²程度のやや小規模な施設になると推定される。また、要求図面の内容も、近年の課題では標準的な構成であることから、受験者にとって、比較的取り組みやすい課題である。

● 過去の関連課題

過去に類似課題として次の宿泊を伴う施設が出題されている。

① 平成 16 年 宿泊機能のある「ものづくり」体験施設

地方都市の郊外に、伝統工芸などの紹介・継承を目的として、「ものづくり」を体験できる施設を計画する課題である。特殊条件として、敷地内を通り抜ける屋外通路の計画が求められた。

主要な所要室として、宿泊部門が洋室[2人室、約 20m²/1室]16室、和室[4人室、約 40m²/1室]2室、ものづくり体験部門が展示ホール[約 160m²]、木工工房[約 120m²]、はた織工房[約 80m²]、陶芸工房[約 50m²]、研修室[約 100m²]であった。

② 平成 8 年 景勝地に建つ研修所

湖畔の景勝地に建つ企業の研修所を計画する課題である。特殊条件として、敷地内に北側から南側に向かう高低差 4mの斜面を活かした計画が求められた。

主要な所要室として、宿泊部門が洋室[2人室、約 20m²/1室]16室、講師用宿泊室[約 40m²]1室、研修部門が研修室(大)[約 100m²]1室と研修室(小)[約 20m²]3室であった。

TAC建築士講座 2013 年合格目標「一級建築士 設計製図本科生」8月上旬より開講！

《詳しくはこちら》